

【第三種郵便物認可】

北陸

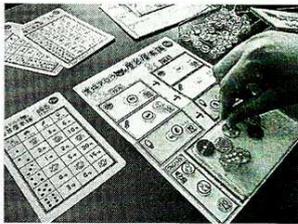
北陸企業の針路

双申

経営コンサルタントの双申(福井県南越前町、嶋崎喜一社長)は起業希望者に「一見すると子供向けのゲームのようだが、最初に割向けながら、お金の流れや仕入れといった商売の基本を簡単に学べるゲームの拡販に力を注いでいる。2011年秋に発売した『黒猫』の3種類の商品を手入れして11年秋に発売した『黒猫』は遊ばずして、収益を確保するにタロウの『屋台本舗』は遊ぶながら経営の基本が身につくゲームとして注目を集めている。

「屋台本舗」は仮想の屋台を運営するボードゲーム。3枚のボードとサイコロ、プラスチック製のコインなどが1セットになっている。サイコロを振って出た目によって、どの商品を度々に何個まで売れるかが決められている。例えばはの目が出た時はラーメンは3杯、団子は4個を売れ、ソフトクリームはゼロといった

経営学べるゲーム開発



「屋台本舗」では商品の仕入れや人件費などの概念を学べる

学校向け教材にも的を絞る。売った分だけ手元資金が増える。従業員の人件費を計上するのにもルールだ。使うボードにもよるが、サイコロを振るたびに売れ残った商品は破棄し、損失が発生する仕組みも取り入れた。売上高から経費を引き、手元に残る現金がスタター0円と高く、ゲームに要する時間の資金を上回る時間が最低4時間かかるといって、経営が成り立っている。そこで利用者のすそ野を広げようとして開発したのが「屋台本舗」だ。価格も同社の嶋崎万太郎専務は「資金繰りやリスク分散、果、県内外の商工会議所などで行った経営セミナーは学びにくい概念や、企業内研修向けの教材をゲームを通じてに続々と採用されている。」と説明する。所有にこだわらない層には6カ月で約3500円のレンタル方式も用意した。単にゲームを販売するだけでなく、ゲームのレンタル料やセミナーの講師料という収益源の多角化にも役立っている。さらに双申が売り込み先として着目しているのが教育市場。大学や高校などでビジネス教育が盛んになってきているのを受けて、学校向けゲーム大会などを開いて知の販売に力を入れた。名度を上げて、市場を開拓するまでに愛知県内の大学や高校が教材として採用した。当面は発売から3年以内、

金沢支店 076-142321-3331
富山支店 076-13321-3461
福井支店 0776-12221-344903



会社経営ゲーム 就活にも一役

経営者向けの能力開発プログラムを手がける双申(本社南越前町)は、従来から「学」で設備投資や商品開発、人員採用、販売を行って、利益の仕組みを学べるもの。手軽にできる製造業版、難易度が高いサービス業版とがある。改良ニゲーシツールとしてゲーム終了後に記入して役立ててもらいたいという改良シートを見たと話す。

「双申」は、2011年11月期に売上高が約2000万円、教材はすでに完成度が高く、新たな製品を次々に生み出すのは難しい。経営ゲームはボードゲームタイプしかないが、利用者を大幅に増やす可能性秘めたタブレット(多機能携帯端末)向け製品などの開発も必要な時期を迎えている。(福井支店 小山隆史)

双申(南越前)が商品一新

1990年設立の双申の前身は、嶋崎喜一社長が父親から経営を引き継いだりボン工場。価格競争が激しく、少しでも利幅を広げようとして経営を学び始めたものの、書店に並ぶのは専門用語がぎっしり詰まった本ばかり。「自分のための教材」として考えたのが、同社の屋台本舗である経営学べるゲームだ。足元の課題は成長戦略。同社は広告製作も手がけているが、2011年11月期の売上高は約2000万円。教材はすでに完成度が高く、新たな製品を次々に生み出すのは難しい。経営ゲームはボードゲームタイプしかないが、利用者を大幅に増やす可能性秘めたタブレット(多機能携帯端末)向け製品などの開発も必要な時期を迎えている。(福井支店 小山隆史)

販路拡大を目指す

決算練習しやすく

前の双申